

研究活動のグレーゾーン

自然科学編 あらすじ

●谷口教授の論文至上主義

藤田 喜美香 (37)
駿星大学大学院 准教授
微生物科学研究センター

谷口 謙一郎 (54)
駿星大学大学院 教授
微生物科学研究センター長

・4月。藤田准教授が、友野教授の退職記念冊子の件で、谷口教授室を訪問する。友野教授の人望が厚いことや、友野研から藤田研に移った岡野が優秀であること、谷口研から藤田研に移った加藤のことが話題にのぼる。

●加藤と岡野 共著者の順番
(オーサーシップ)

加藤 吉司 (26)
藤田研 博士課程2年

岡野 桐人 (26)
藤田研 博士課程2年

・博士課程2年の加藤と岡野は仲が良い。論文の下書きをしながら、共著者の順番がわからないという加藤に、岡野は論文の投稿先それぞれに投稿規定があることを教える。友野研の研究倫理教育は充実しており、そこで学んでいた知識だ。

●ある日のラボミーティング
(データ管理)

リンルオシー
淋 若汐 (24)
藤田研 修士課程2年

今井 美咲 (23)
藤田研 修士課程1年

・藤田研のミーティングで、藤田准教授が生データの管理・データ整理の重要性を説明し、加藤はファイル名やフォルダ名のルールを指導される。

●今井への論文指導
(習ったのに勘違いのデータ操作・画像の加工)

・修士課程1年の今井は、画像の見栄えを良くする加工がデータ操作だとは認識していなかった。データ操作のことを教えたのに勘違いしていた学生を前に、教えることの難しさに気がつく藤田准教授。

●岡野への論文指導
(不適切なオーサーシップ
ギフトオーサーシップ)

・半年後。岡野は論文指導で藤田准教授から、共著者に谷口教授を加えるよう言われる。慣例となっているギフトオーサーシップではないかと推測した岡野は、疑問をいだきながらもうなづく。

●友野教授 元教え子への陣中訪問
(研究の目的を忘れるな)

友野 倫太郎 (64)
駿星大学大学院 教授

・友野教授が元教え子の様子を見に来た。岡野と加藤と3人で、研究目的や将来の夢を語り合う。加藤は学位取得後の進路を決めかねていることを打ち明ける。

<p>●別の日のラボ 加藤と岡野 〈自己盗用〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月後。加藤は、岡野の指摘のおかげで執筆中の論文の自己盗用に気づく機会を得る。一方で、その前の論文でも自己盗用の可能性に気づくが、放置する。
<p>●学会発表内容の論文化 〈二重投稿〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・翌年夏。淋^{リン}ががっかりしているのので、心配になった加藤は話を聞く。淋^{リン}は学会発表内容を短くまとめて論文化したもの（4頁）があるので、それをふくらませて新たな論文にしようとしたら、二重投稿だとして藤田准教授に止められたという。 ・加藤は自分の自己盗用を思い出し、どのように行動すればいいのか決めかねている。
<p>●学術誌編集委員会からの一報 〈サラム論文の疑い〉 〈自己盗用〉</p> <p>斉藤 恵 (43) 谷口研 秘書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月後。ジャーナルから谷口教授に、サラム論文の疑いを指摘するメールが届く。谷口教授が責任著者で、筆頭著者は藤田准教授だった。学内での調査がはじまるなか、谷口教授は体調不良を理由に大学を休む。 ・1週間後。斉藤秘書から谷口教授の事情を聞いた友野教授は、藤田准教授から話を聞く。友野教授に過去の出来事を打ち明ける藤田准教授。友野教授の心からの言葉を聞いて、藤田准教授は思わず涙を流す。 ・数時間後。何も知らない加藤が、藤田准教授に自己盗用の告白をする。 ・アカデミアに残りたいと心を決めた加藤と、過去の研究業績の問題をかかえる藤田は、ともにこれまでの行為について語り合う……。